

# 魔神の呪

(大正六年寮歌)

佐藤惣之助君 作歌

植村泰二君 作曲

一

魔神まじんの呪のろいアルペンの  
白雪はくせつ永久とほに清きよからず  
見みよ永劫えいこくと誓ちかひけん  
平和へいわの春はるは短みじかくて  
吹ふく凋落ちようらくの秋風あきかぜに  
正義せいぎの光影ひかりかげくらし

二

されど儼然げんぜん東洋とうように  
その義ぎと俠きやうを胸むねにして  
燦さんたる北斗ほくと北陲ほくすいの  
強きやうと仰あおがれ誇こりつづ  
自治じちを精神いのちの我寮わがきやうは  
映華えいけしある歴史しゆ十二年

三

嗚呼ああ北海ほつかいの荒吹雪あらふぶき  
白箭はくせん膚はだを撃つくも  
胸むねの狂瀾きやうらん青春せいしゆんの  
血潮ちしおに如何いかで比ひすべきぞ  
力ちからの緒琴おごと高鳴たかなりて  
紅くれな燃いゆる悶もだえあり

四

残陽ざんよう西にしに茜あかねして  
今日きようも暮くれ行く手稲山ていねやま  
雲くもの五彩ごさいを眺ながめては  
思おもひは遠とほく渺茫べうぼうの  
彼かの海うみを越こえ山やまを越こえ  
雄図ゆうと千里せんりぞ駈はしりゆく

五

平和へいわの流れ豊平とよひらの  
狭霧さきり罩かさめたる朝あさぼらけ  
東ひがし指さして流れ行く  
淙々そうそうの音おとを我聴われきげば  
瀬々せせの河波かはなみ声こえあげて  
唄うたふ「自由じゆう」の二字にじの曲きよく

六

今宵こよい榆影ゆえいに団欒だんらんして  
月影つきかげに酌しやくむ自治じちの宴えん  
廻めぐる盃さかづき夜よも更ふけて  
北斗ほくと傾かたむく玻璃はりの窓まど  
いざ吾わが友ともよ熟睡うまいせむ  
明日あすは人生じんせいの旅たびなれば